

会 議 録

件 名	第2回宇治市特別職報酬等審議会
日 時	令和6年10月10日（木） 9：30～11：10
場 所	本庁舎 8階大会議室
出席者	各委員・事務局職員
【概要】 1 今後の審議予定について 2 審議等 （1）資料説明等について（第1回資料の補足） （2）答申の方向性について 3 その他 【内容】 1 今後の審議予定について 審議予定について確認した。 2 審議等 以下について事務局より説明を行った。 （1）資料説明等について ・第1回資料の補足について 資料1 （2）答申に向けて ・答申に向けて 資料2 （委員）備蓄の毛布は今現在あるのか。どこに備蓄しているのか。 （事務局）毛布の備蓄数は資料1－3のとおり。台風時等に、緊急ではないが災害が予見される場合は事前に自主避難所を開設することがあるが、その際に必要があれば防災倉庫から出して使用できるよう対応している。なお、防災倉庫は基本的には屋外に設けている。 （委員）資料1－3によると、宇治小学校であれば収容人数が約5,000人とあるが、実際毛布の備蓄は1,400枚しかない。例えば大地震が発生し、たくさんの方が避難した場合、とても足りないと思う。また、体育館のみに約5,000人も収容できるのか。 （事務局）約5,000人の収容は体育館だけでなく、校舎内の教室も含む。そのため、災害の規模によって異なると思うが、体育館だけでなく教室等も利用いただくことになる。 （委員）黄檗体育館やコミセンなども避難所になっているが、そこには備蓄がないように見える。黄檗公園はどうなっているか。 （事務局）黄檗公園は防災拠点として整備しているところであり、近々、備蓄品を置けるような場所の整備を行う予定になっているはず。京都府が示している、一定緊急時にも対応できる水準分は確保できている。この数でいいのかというところは、能登半島地震の際に宇治市の職員を派遣しており、現場ではこういったものが必要なのか等見てきているので、そういった経験も取り入れて検討していきたい。 （委員）水道料金について、一人暮らしの高齢者は減免されると聞いたことがある。 （事務局）低所得者に対する減免制度はある。 （委員）資料1－2で下水道について、支出額が増えている。管路の修繕は、道路事業のついでにしか実施されていないと思っていたが、ここまで進んでいるのは、計画的な実施が感じられ、いい方向だと思う。また一般会計について、今後いくつかの大きな施設整備の予定があり、公債の発行が必要と考えていること、また今後も必要な起債はきっちり行っていくと考えていることはよくわかった。	

（次頁に続く）

(委員) 災害対応について、リストを見てもこれでは足りないのでは。避難者が床に寝る状況が推定されるが、もう少し考えてみてもいいのでは。能登半島地震の派遣経験があればわかると思うが、少なくとも高齢者の方が寝られる場所の確保に関して工夫は必要かと思う。昨今ではLGBTの方等個別の対応が必要な場合もあり、議論が必要ではないか。

例えばペットを連れてくる場合の避難方法について、法律では各避難所で決めるよう定められているが、実際に決まっているのか。内容に関する周知が行き届いていないように感じる。実際に避難した時にどんなことが起きそうか、こういった対応を役所がしてくれるのか、市民はきちんと把握できていないように思う。

熊本地震の際、近くの小学校に避難したもののほとんど物資がなく、何もできない状態だったが、町内会が自主財源を持っており防災グッズを備蓄していたため、それを避難所に持ち込む形で対応できた、ということがあった。宇治市でもそのようなことができるよう整備されていればいいが、持ち込む際に許可が必要である等、見かけ上備蓄があったとしても実際に上手く運用できるのかも心配。宇治市の場合、以前水害があり、さまざまな対応をしているので、その経験を生かした管理体制があると思うが、市民はそれを知らないのでは。実際の備蓄倉庫の状況や、管理者が足りないときはどのように対応すればいいのか、あるいはどこに連絡すればいいのか等、具体的な内容がより周知できればいいのでは、と思う。

(事務局) 地域については、自主防災組織をできるだけつくってもらうために、各種啓発活動や補助金等を実施している。自主防災組織はいくつかあるが、まだまだ少ない状況にあり、どのように増やしていくかについては検討課題である。地域の方にも、何かあったときにはまず地域でも動いていただく必要があるという意識になってもらえるように啓発に取り組んでいる。備蓄について、今時点で何が必要か日々検討しているが、一定の基準の中今後も引き続き検討していきたい。今回いただいた意見は、担当課と共有する。

(委員) 備蓄のなかで、賞味期限があるものの取扱いはどうしているか。

(事務局) ローリングストックという形で管理している。賞味期限が近付いてきたアルファ米等は、町内会から防災講座等の依頼があった際に持参し、実際に配付するものとして紹介お渡ししている。

(委員) 備蓄がない地域については、設置場所がないのか。

(事務局) スペース的な問題もあるが、地域全体で見たときに、集中備蓄という形をとっており、他の地域のものと同じ場所で備蓄している。配付の際には職員が取りに行くことになる。

(委員) 宇治市は人口減少が顕著で、最近17万人台になったかと思うが、水道料金に関して、契約時と現在の使用量に格差が出てきているのでは。

(事務局) もともと、実際に使用した水の使用量と府の施設建設費用を市町で按分して負担する、ということになっており、宇治市は昔から20万人都市で水の使用量も多いだろうと見込まれており、その分建設費用の負担が大きかった。現在人口が減少していく中でも、負担金額は変わっておらず、課題としている。数年前から、宇治市も京都府の経営審議会の委員になっており、そこで意見するなかで、今年度ある程度の建設負担水量の見直しを検討すると言われている。京都府では、今年度中にある程度用途を立てて来年度から負担金改定の実施を見込んでいるが、今よりは現状の宇治市に見合ったものに改善されるよう検討される予定。京都府の南部では、負担が低い傾向にあるため、そこを平準化してもらえるよう意見している。

(委員) お茶と宇治のまち歴史公園の赤字について。大河ドラマ展の影響は。

(事務局) 大河ドラマ展だけでなく、茶づなミュージアムにも来てもらえるようにと期待はしていたが、当初の目標には達していない状態。一方、大河ドラマで源氏物語が取り上げられているということもあり、源氏物語ミュージアムの入館者数が開館以来の大盛況となっている。茶づなミュージアムは厳しい状況であるが、宇治市への誘客という点では、大河ドラマをうまく利用できていると感じる。現在は旅行会社とタイアップし、団体客にも来場してもらえるようセールスを行い、客足は徐々に増えつつある、という状況。

(委員) 太閤堤跡を目的とした観光客はいるのか。

(事務局) 宇治市天ヶ瀬ダムかわまちづくり計画において、天ヶ瀬ダムから太閤堤跡にかけて観光振興ができるよう計画しているところ。最近では、Eボートでのうじがわ川下り体験のイベントを実施している。また、日時を限定せずとも実施できるよう計画している。

(次頁に続く)

10月にはニンテンドーミュージアムもオープンし、京阪宇治駅までバスが通っているの
で、こちらにも寄ってもらえないかと考えている。複数のコンテンツを使い、誘客について
は様々検討している。

(委員) 先日茶づなを訪問したが、大河ドラマ展はかなり混雑していた一方、茶づなミュージア
ムはあまり人がいないように感じた。施設内の構造について、いろいろミスマッチもあるの
では。個人的には、施設自体に良い印象を持った。オープンテラスもよかった。

(委員) 防災に関して、行政だけでなく地域・府・国との連携体制をしっかりと作っておく、とい
うことがこの先一番必要なことではないかと思う。

資料1-3にある備蓄資材に粉ミルクとあったが、液体ミルクもあった方がいいのでは。
また、東日本大震災を経験したが、一番困ったのはトイレだったので、簡易トイレが備蓄に
あった方がいいのではと思う。予算の範囲内で検討いただきたい。

(委員) 資料1-2の水道の収支計画において、当年度純損益でマイナスが続き増えているが、
見通しはどうなっているか。数字だけ見ると、見通しは暗いように感じるが、収支計画の今
後に関するコメントではそんなに暗くもないようだ。内容に乖離があるように感じるが、現
実的にはどうか。

(事務局) 資料の内容は、すべて料金改定前の状況での表であり、令和4年に15%弱料金改定
を実施したため、令和7年度までのマイナス部分については解消することになっている。令
和8年度以降については、状況は変わることが予想されるので、またその段階で見直すとい
う形になっている。今の状況だと物価高騰と光熱費の増加もあり、収支は大変厳しいと水道
の方から聞いているが、また料金改定等が必要になってくるかは、今後の議論としている。
今年度の収支については、令和4年の料金改定の計画時にプラスマイナスゼロぐらいで見込
まれていたが、物価高騰は計画時考慮していなかったため、電気代等含めて、今までの利ざ
やで何とか調整されている状態。

(委員) 西小倉地域小中一貫校や給食センターの整備に対する経費が非常に多いので、施設の修
繕をいったん保留にするなど、優先順位はあると思う。今の子供や地域を守っていくことも
重要だとは思う一方、宇治市の子供の人口が減少している現状に対し、投資していくことも
必要だと考える。そういった攻めにお金を使うことはできないか。今は守りで結構手一杯な
ように感じる。確かにインフラや学校の整備等守りの部分も大事だと思うが、やはり子供が
増加しないと、将来どんどん過疎化していくのでは。そういったことに少しずつもしくは大
胆に、お金や施策を投じていかないと、宇治市の将来はないのでは。

(事務局) 教育の現場では、宇治市を将来的に担う子供たちの育成ということで、例えば教育の
DX化やデジタル化で1人1台端末を活用し、個々に応じた学びを提供できないかというこ
ろで、積極的に環境整備に力を入れている。その一方で、例えば配慮が必要な子供たちに
対し、どうすれば分け隔てなく教育が提供できるのかについても、ソフト面として何ができ
るか積極的に考えている。

(委員) 特別職の報酬について、引き上げる場合、一律割合(%)ではなく金額で示すのか。

(事務局) 報酬改定を割合(%)で行うと、1円単位の細かい額になることもあり、これまでか
ら特別職の報酬は基本的に5,000円刻みの設定額としている。

(委員) 物価高騰の影響もあり、額の引き上げについては問題ないのでは。

(委員) 自主返納については今後も続けていくのか。

(事務局) 管理職の減額を続けている中で、特別職だけ減額しないということではできないと思っ
ている。もともと管理職減額はラスパイレス指数が全国1位になったことを受けて、市民理
解が得られないということで実施した。2年前には見直しを行い、その効果も出てきている
中で、今、管理職減額をやめるとまたラスパイレス指数が上がってしまう。今後の推移を見
ながら判断する必要があると考えており、その中で、特別職だけ減額措置をやめるのは難し
い。

(委員) ラスパイレス指数で順位を出すとどこかは必ず1位になるので、その順位を基準にして
引き下げるというのもどうなのか。

(事務局) ラスパイレス指数は一つの物差しであり、一概には言えないが、やはり国がランキン
グを出す以上、市民の方からすると、宇治市はこんなに高いのかという意見も一方ではいた
だくなかで、なかなかバランスが難しい。

(次頁に続く)

(委員) 働き手のモチベーションが下がらないように、一般職や管理職もある程度の給与額は必要だと感じる。人材難もあるので、検討の余地はあるかと思う。

(委員) 引き上げても数字的には全く問題ないように思う一方、中小零細の企業の方々と接する機会が多いなかで、企業の賃上げは人事院勧告での公務員の引き上げ水準までは達しない企業が大半だと感じている。その方々が見たときに、どう映るかというのは少し懸念するところである。

(事務局) 今回のご意見をベースに、次回答申の内容についてご検討いただきたい。

(審議終了)